



育ちの芽

副園長 奥村 綾

～生活発表会を終えて～

先月の生活発表会には、多くの保護者の方々にお越しいただきありがとうございました。『クラスだより』や『育ちの芽』を通じて、クラスの解説をよく読んで内容を理解していただくことや、取り組んできた過程を想像しながら観ていただきたいことなど、事前にお願ひさせていただきました。主旨をよくご理解いただき、子ども達が表現している姿を温かく見守り、笑ったり、涙したり、一緒に楽しんでご覧いただいている様子が伺え、それぞれ保護者の方々から

「遊び込んできた様子がよくわかりました。」「自分の子があんなに大きな声が出るとは思いませんでした。」「舞台の後ろの方ですごく楽しそうに踊っている様子が見れました。」等のご感想をいただき、子ども達の育ちを共有することが出来たことを大変嬉しく思いました。ご理解、ご協力ありがとうございました。

発表会が終わってからも、まだまだ劇遊びや発表会ごっこが盛り上がっていました。

うきうきタイム中に、たんぽぽ組の子ども達が、紙袋の目と口の部分をくり抜いておばけを作り、頭から被っておばけごっこをしていました。

「おばけだぞー」と追いかけてきたので、近くにいた、あお組の子ども達に

「おばけが追いかけてくるけどどうしよう」と声を掛けると、「そうだ！警察を呼ぼう」とあおぐみの劇遊びで登場した警察の子達を呼んできて

「逮捕します！」とおばけ達を捕まえてくれました。

また、つくし組では、お風呂ごっこの劇遊びが発展し、ピロティーに足湯が登場。他のクラスの子も足湯に浸かり、“♪ババンバ バンバンバン♪”とうきうきタイムの時間ずっと入っている子もいました。

～クラスで過ごす最後の日・・・何をしたい？～

例年、クラスの最終日は、母の会委員さんを中心に茶話会を開いてくださっていましたが、今年度は、“クラスで過ごす最後の日に何をしたい？”かを、子ども達で考えてみる

ことにしました。

年長組では、折り紙、ぬりえ、トランプ、制作、オセロ、こま、縄跳びなど普段していた遊びやかなるた大会、戦いごっこ、忍者ごっこ、リレー、パラバルーン、ドッチボール、紙飛行機対決、相撲、いす取りゲーム、クイズ、じゃんけん列車、みんなでダンスなど、“友達と一緒に楽しむ遊び”がたくさん出ました。

また、『年少さんと一緒に遊んであげたい』『あか組とリレーしたい』『お母さんたちにお礼の言葉を言いたい』『先生達にお礼の言葉を言いたい』『幼稚園に向かってありがとうって言う』『ママと一緒に手形取る』『おうちの人に歌のプレゼントをしたい』『何か作ってプレゼント(6年間育ててくれてありがとうの気持ち)』『トンネル作ってあげたい』『3年間の思い出の絵をプレゼント』など、“何かをしてあげたい気持ち”を表現する子ども達もいました。

年中・年少組も、2月28日に話し合う予定をしていました。

このように各学年、今までの経験を生かした遊びを盛り上げたり、1年の思い出を振り返り、さまざまな思い出活動にとりかかろうとしていた矢先に、この度の臨時休園という要請に、戸惑いも大変大きく、私たち職員もあまりに突然のことで、気持ちを切り替えることが出来ないというのが本心です。

年長児にとっては、突然2月28日が幼稚園で過ごす最後の日になりました。1日中思い切り遊び、最後の日を存分に楽しんだクラスもありましたが、中には、

「幼稚園が長いお休みになるのは嫌や」と朝から泣いて登園してくる子や、感謝の気持ちを書いた手紙を持って来てくれる子、降園時、先生の話をしている時「なんだか寂しくて泣きそうになって来た」と一人の子が泣き出し、「れんげの時としろの時ありがとう」と先生に抱き着いて涙を流す子ども達もいました。

環境の変化に対する期待や不安が入り混じるこの時期に、友達や先生と一緒に過ごせないこと、思い切り遊べないことが、子ども達にとって決して良い環境とは言えませんが、このような経験も、これからの時代を生きていく子ども達には必要なことと捉え、今後も、自ら判断して行動できる力を身につけていくことが大切であると考えます。

1年の締めくくりの時期に、予期せぬことが起こり、残念な気持ちでいっぱいですが、私たち教職員も気持ちを切り替え、1年の活動や一人ひとりの子どもの育ちについて振り返りを行い、今後の保育に生かしていきたいと思えます。